

とめしやのものに言はず様にしてケツかる。

俺は朝日新聞社へも寄つて、今まで俺が精神病者であるが故に受けたのかも知れないが、實に人権蹂躪の問題だと、記者に寸時筆記さして置きたかつた。

心齋橋を渡つて、所謂歡樂の巷に出た。

人間のメスやオスが互ひに織なして、色々の空氣は引つ張り風の有様で奪ひ合はれて吸はれてゐた。

俺はまむしでも食はふかと思つたが、彼奴が追いて來てゐる。

活動館と芝居小屋がならんでゐる。お好み次第だ。俺は中座か何かの切符を買つて這入つた。

まだ開幕になつてゐない。

澤正でも山長一派でもない新派の何とか言ふ芝居がある。だと言ふ。

觀覽席は満員だ。

腰掛ける所がない。俺は正面の舞臺のネサの土間にアグラをかけた、

緞帳の幕は垂れ下つてゐる。